水稲　除草剤一覧

1　表示法と使用上の注意事項

(1)　作期：普…普通期　早…早期　共…共通

(2)　適用雑草：表層剥離は「アオミドロ・藻類による表層剥離」を示す。
オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な中後期処理剤との組み合わせで使用する。

(3)　移植栽培で除草効果および薬害の面から使用を避けるべき事項を次のとおり略記する。

- 漏水田：減水深が 2cm／日以上の漏水の大きな水田
- 深水：極端な深水となった水田
- 軟弱苗：軟弱な苗を移植した水田
- 強還元田：未熟有機物多用田、透水不良田などの強還元田
- 浅植え：極端な浅植えの水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- 冷水：冷水かけ流し条件が加わる中山間地帯

(4)　登録内容は、2023 年 7 月 1 日現在

(5)　本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。

(6)　剤型については、Ⅱ.除草剤による防除を参照。

［参考］

雑草の葉齢の標準的進度（農産部）

代かき後日数	早期栽培（４月下旬植）			普通期栽培（６月中～下旬植）			
	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ウリカワ
５日	発生前	発生前	発生前	0.5～1.2	発生始	発生始	発生始
7	発生始	発生前	発生始	1.2～2.0	1.0～1.5	1.0～1.5	1.0～1.5
10	0.5～1.0	発生始	0.5～1.0	2.0～2.5	1.5～2.0	1.5～2.0	2.0～2.5
12	1.0～1.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.5～3.2	2.5～3.0	2.5～3.0	3.0～3.5
15	1.5～2.0	1.0～1.5	2.0～2.5	3.2～3.8	3.0～4.0	3.0～4.0	3.5～5.0
20	2.0～2.5	1.5～2.5	2.5～3.5	3.8～4.5	4.0～5.0	4.0～5.0	5.0～6.5

注）単位は葉齢

2　農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産省　農薬登録情報提供システム

https://pesticide.maff.go.jp/

３　除草体系

(1)　移植栽培

下表を参考にして地域や前年までの雑草防除体系を考慮し、最も効果的な防除体系を選ぶ。

<table>
<tr><th colspan="2">雑草の種類</th><th>１回目</th><th>２回目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">一年生
イネ科</td><td>ノビエ</td><td rowspan="2">一発処理剤</td><td rowspan="2">ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ、ﾒﾀﾐﾎｯﾌﾟを含む中後期剤</td></tr>
<tr><td>アゼガヤ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">多年生</td><td>セリ</td><td rowspan="3">対象雑草に適用のある一発処理剤</td><td rowspan="6">2,4-PA、MCPA、ﾍﾟﾉｷｽｽﾗﾑ、ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝを含む中後期剤</td></tr>
<tr><td>クログワイ</td></tr>
<tr><td>コウキヤガラ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ＳＵ
抵抗性</td><td>イヌホタルイ</td><td rowspan="3">非ＳＵ剤あるいは、ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ、ｸﾛﾒﾌﾟﾛｯﾌﾟ、ﾍﾞﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ、ﾌﾞﾛﾓﾌﾞﾁﾄﾞ等を含む一発処理剤</td></tr>
<tr><td>アゼナ</td></tr>
<tr><td>コナギ</td></tr>
</table>

注）１　２回目は雑草の発生が多い場合に処理する。

２　薬剤処理時期は雑草や水稲の生育ステージを考慮して決める。

３　薬剤によって処理時期が適期内でも遅い場合にコナギなどの広葉雑草が問題になることがある。広葉雑草の多発生が予想される場合には、適期内でも早い時期に処理を行い、除草剤一覧を参考にして除草剤を選定する。

(2)　直播栽培

ア　乾田直播

処理時期	乾田期（播種直後～稲出芽前）	乾田期（播種後10日以降）～入水5日前	入水後
除草剤名	サターンバアロ乳剤	クリンチャーバスＭＥ液剤 クリンチャーＥＷ	直播水稲に登録のある初中期一発処理剤

注）播種前に雑草が多い場合は、耕起前日までに非選択性除草剤を使用する。

イ　湛水直播

処理時期	播種直後～ノビエ１葉期	イネ１葉期～ノビエ２葉期	生育中～後期
除草剤名	サンバード粒剤 プレキープ１キロ粒剤	直播水稲に登録のある一発処理剤	直播水稲に登録のある中後期除草剤

４．移植栽培

2023年7月1日現在

（１）移植後生育初期（非SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
移植後生育初期	ベクサーフロアブル（1999）	ペントキサゾン	2.9
	ホットコンビフロアブル（2015）	テニルクロール	4.0
		ベンゾビシクロン	4.0
	ユニハーブフロアブル（1995）	プレチラクロール	5.0
		ベンゾフェナップ	20.0

（２）初期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初期一発処理	クサホープＤ粒剤（1998）	ジメタメトリン	0.2
		ピラゾレート	6.0
		プレチラクロール	1.5
	スラッシャ１キロ粒剤（2001）	ジメタメトリン	0.6
		ピラゾレート	12.0
		プレチラクロール	4.5
		ブロモブチド	6.0
	ナイスショットジャンボ（2002）	カフェンストロール	4.2
		ピラゾレート	18.0
		ブロモブチド	18.0
	マキシーＭＸ１キロ粒剤（2013）	プレチラクロール	4.2
		メソトリオン	0.6

４．移植栽培

2023年7月1日現在

（３）初・中期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	アシュラジャンボ	トリアファモン	1.25
		ピラクロニル	5.0
	(2023)	ベンゾビシクロン	5.0
	アシュラフロアブル	トリアファモン	0.96
		ピラクロニル	3.8
	(2020)	ベンゾビシクロン	3.8
	アシュラ1キロ粒剤	トリアファモン	0.5
		ピラクロニル	2.0
	(2023)	ベンゾビシクロン	2.0
	アシュラ400FG	トリアファモン	1.25
		ピラクロニル	5.0
	(2023)	ベンゾビシクロン	5.0
	イネキングジャンボ	ピラクロニル	4.0
		ピラゾレート	20.0
	(2011)	ベンゾビシクロン	4.0
	イネキングフロアブル	ピラクロニル	3.6
		ピラゾレート	20.0
	(2011)	ベンゾビシクロン	4.0
	イネキング１キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
		ピラゾレート	10.0
	(2010)	ベンゾビシクロン	2.0
	イネリーグジャンボ	フェントラザミド	7.5
		テフリルトリオン	7.5
	(2023)	クロメプロップ	11.2
	イネリーグフロアブル	フェントラザミド	5.7
		テフリルトリオン	5.7
	(2023)	クロメプロップ	8.5
	イネリーグ1キロ粒剤	フェントラザミド	3.0
		テフリルトリオン	3.0
	(2023)	クロメプロップ	4.5
	エーワンジャンボ	オキサジクロメホン	2.0
	(2012)	テフリルトリオン	10.0
	エーワンフロアブル	オキサジクロメホン	1.2
	(2013)	テフリルトリオン	6.0
	エーワン１キロ粒剤	オキサジクロメホン	0.8
	(2011)	テフリルトリオン	3.0
	エンペラー1キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
		ピリミノバックメチル	0.75
	(2020)	フェンキノトリオン	3.0
	カウンシルエナジージャンボ/	トリアファモン	1.2
	アバンティジャンボ	フェンキノトリオン	7.5
	(2020)	フェントラザミド	7.5
	カウンシルエナジーフロアブル/	トリアファモン	1.0
	アバンティフロアブル	フェンキノトリオン	5.7
	(2020)	フェントラザミド	5.7
	カウンシルエナジー1キロ粒剤/	トリアファモン	0.5
	アバンティ1キロ粒剤	フェンキノトリオン	3.0
	(2020)	フェントラザミド	3.0
	ガンガンジャンボ	ピリミスルファン	2.0
	(2017)	フェノキサスルホン	8.0
	ガンガン豆つぶ２５０	ピリミスルファン	2.0
	(2017)	フェノキサスルホン	8.0
	ガンガン１キロ粒剤	ピリミスルファン	0.5
	(2017)	フェノキサスルホン	2.0
	キマリテジャンボ	イプフェンカルバゾン	8.3
	(2017)	テフリルトリオン	10.0
	キマリテフロアブル	イプフェンカルバゾン	5.0
	(2017)	テフリルトリオン	6.0
	キマリテ１キロ粒剤	イプフェンカルバゾン	2.5
	(2017)	テフリルトリオン	3.0
	サキガケ楽粒	イプフェンカルバゾン	10.0
		テフリルトリオン	12.0
	(2023)	フロルピラウキシフェンベンジル	2.0
	ジェイソウルジャンボ	シクロピリモレート	6.7
		ピラゾレート	13.3
	(2021)	フェントラザミド	6.7
	ジェイソウルフロアブル	シクロピリモレート	5.5
		ピラゾレート	11.0
	(2021)	フェントラザミド	4.5
	ジェイソウル1キロ粒剤	シクロピリモレート	3.0
		ピラゾレート	6.0
	(2021)	フェントラザミド	3.0
	ジェイフレンドジャンボ	ピラクロニル	0.8
		テフリルトリオン	7.5
	(2019)	オキサジクロメホン	5.0

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	ジェイフレンドフロアブル	ピラクロニル	3.8
		テフリルトリオン	5.7
	(2018)	オキサジクロメホン	0.6
	ジェイフレンド１キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
		テフリルトリオン	3.0
	(2018)	オキサジクロメホン	0.3
	ジャイロ1キロ粒剤	イプフェンカルバゾン	2.5
		ベンゾビシクロン	3.0
	(2019)	ベンゾフェナップ	8.0
	ジャスタ1キロ粒剤／	シクロピリモレート	3.0
	クサウェポン1キロ粒剤	トリアファモン	0.5
	(2022)	ピラゾレート	6.0
	ジャスタジャンボ／	シクロピリモレート	7.5
	クサウェポンジャンボ	トリアファモン	1.2
	(2022)	ピラゾレート	15.0
	ジャンダルムMX豆つぶ250	ピリフタリド	7.2
		ピリミスルファン	2.0
	(2021)	メソトリオン	3.6
	ジャンダルムMXジャンボ	ピリフタリド	7.2
		ピリミスルファン	2.0
	(2021)	メソトリオン	3.6
	ジャンダルムMX1キロ粒剤	ピリフタリド	1.8
		ピリミスルファン	0.5
	(2021)	メソトリオン	0.9
	ストレングス１キロ粒剤	**テフリルトリオン**	**3.0**
		トリアファモン	**0.5**
	(2024)	**フロルピラウキシフェンベンジル**	**0.45**
	ピラクロエース1キロ粒剤／	ピラクロニル	2.0
	カリュード1キロ粒剤	ベンゾビシクロン	2.0
	(2018)	ベンゾフェナップ	8.0
	プライオリティ1キロ粒剤	トリアファモン	0.5
	(2020)	フェンキノトリオン	3.0
	ボデーガードジャンボ	テフリルトリオン	7.5
	(2012)	フェントラザミド	7.5
	ボデーガード１キロ粒剤	テフリルトリオン	3.0
	(2011)	フェントラザミド	3.0
	ワザアリ楽粒	**イプフェンカルバゾン**	**10.0**
	(2024)	**テフリルトリオン**	**12.0**

（４）初期一発処理（SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初期一発処理	イノーバＤＸ１キロ粒剤５１	ダイムロン	4.5
		フェントラザミド	2.0
	(2008)	ブロモブチド	7.5
		ベンスルフロンメチル	0.51
	カットダウン１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		ピラクロニル	2.0
	(2016)		
	クサトリエースＬジャンボ	カフェンストロール	7.0
		ダイムロン	15.0
	(1999)	ベンスルフロンメチル	1.7
	クラッシュＥＸジャンボ	イマゾスルフロン	1.8
		カフェンストロール	4.2
	(2001)	ダイムロン	20.0
	マサカリＬジャンボ	インダノファン	2.8
		クロメプロップ	7.0
	(2003)	ベンスルフロンメチル	1.0
	ヨシキタ１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.90
		ブロモブチド	9.0
	(2010)	ペントキサゾン	3.9

（５）初・中期一発処理（SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	**アカツキジャンボ**	**フェノキサスルホン**	**8.0**
		フェンキノトリオン	**12.0**
	（2024）	**メタゾスルフロン**	**4.0**
	アカツキ豆つぶ250	**フェノキサスルホン**	**8.0**
		フェンキノトリオン	**12.0**
	（2024）	**メタゾスルフロン**	**4.0**
	アカツキフロアブル	**フェノキサスルホン**	**3.8**
		フェンキノトリオン	**5.7**
	（2024）	**メタゾスルフロン**	**1.9**
	アカツキ１キロ粒剤	**フェノキサスルホン**	**2.0**
		フェンキノトリオン	**3.0**
	（2024）	**メタゾスルフロン**	**1.0**
	アクシズＭＸ１キロ粒剤	ピリフタリド	2.4
		メソトリオン	0.90
	(2014)	メタゾスルフロン	0.80
	アッパレＺジャンボ	ピラクロニル	5.0
		プロピリスルフロン	2.25
	（2017）	ブロモブチド	22.5
	アッパレＺフロアブル	ピラクロニル	3.7
		プロピリスルフロン	1.7
	（2017）	ブロモブチド	16.8
	アッパレＺ１キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
		プロピリスルフロン	0.9
	（2017）	ブロモブチド	9.0
	アピログロウMXエアー粒剤	ブレチラクロール	11.25
		ピリフタリド	3.75
		メソトリオン	2.25
	(2023)	ピラゾスルフロンメチル	0.75
	アピログロウMXジャンボ	ピラゾスルフロンメチル	0.75
		ピリフタリド	3.75
		ブレチラクロール	11.25
	（2016）	メソトリオン	2.25
	アピログロウMX１キロ粒剤	ピラゾスルフロンメチル	0.3
		ピリフタリド	1.5
		ブレチラクロール	4.5
	（2016）	メソトリオン	0.9
	アピロトップＭＸ１キロ粒剤５１	ピリフタリド	1.2
		ブレチラクロール	4.6
		ベンスルフロンメチル	0.51
		メソトリオン	0.90
	イッポンＤフロアブル	ダイムロン	8.0
		ピラクロニル	4.0
		ブロモブチド	12.0
	（2015）	ベンスルフロンメチル	1.0
	イッポンD1キロ粒剤５１	ダイムロン	4.0
		ピラクロニル	2.0
		ブロモブチド	6.0
	（2015）	ベンスルフロンメチル	0.5
	ウルティモZジャンボ	シクロピリモレート	8.6
		ピラゾレート	17.1
	（2021）	プロピリスルフロン	2.6
	ウルティモZフロアブル	シクロピリモレート	5.5
		ピラゾレート	11.0
	（2021）	プロピリスルフロン	1.7
	ウルティモＺ1キロ粒剤	シクロピリモレート	3.0
		ピラゾレート	6.0
	（2021）	プロピリスルフロン	0.9
	カイリキＺジャンボ	イプフェンカルバゾン	8.3
		テフリルトリオン	8.3
	（2021）	プロピリスルフロン	3.0
	カイリキZ1キロ粒剤	イプフェンカルバゾン	2.5
		テフリルトリオン	2.5
	（2022）	プロピリスルフロン	0.9
	カイリキZフロアブル	イプフェンカルバゾン	4.8
		テフリルトリオン	4.8
	（2022）	プロピリスルフロン	1.8
	カウンシルコンプリートジャンボ	テフリルトリオン	10.0
	／ボデーガードプロジャンボ	トリアファモン	1.6
	(2018)		
	カウンシルコンプリートフロアブル	テフリルトリオン	5.8
	／ボデーガードプロフロアブル	トリアファモン	1.0
	(2018)		
	カウンシルコンプリート1キロ粒剤	テフリルトリオン	3.0
	／ボデーガードプロ1キロ粒剤	トリアファモン	0.5
	(2018)		

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	カチボシLジャンボ	イプフェンカルバゾン	8.3
		テフリルトリオン	6.7
	(2016)	ベンスルフロンメチル	1.7
	カチボシLフロアブル	イプフェンカルバゾン	5.0
		テフリルトリオン	4.0
	(2016)	ベンスルフロンメチル	1.0
	カチボシL１キロ粒剤51	イプフェンカルバゾン	2.5
		テフリルトリオン	2.0
	(2016)	ベンスルフロンメチル	0.5
	ガツントZジャンボ	**プロピリスルフロン**	**4.5**
	(2024)	**テフリルトリオン**	**10.0**
	ガツントZフロアブル	プロピリスルフロン	1.7
	(2023)	テフリルトリオン	3.8
	ガツントZ1キロ粒剤	プロピリスルフロン	0.9
	(2023)	テフリルトリオン	2.0
	キクンジャーＺジャンボ	ピラゾレート	30.0
	(2014)	プロピリスルフロン	1.8
	キクンジャーＺフロアブル	ピラゾレート	27.3
	(2014)	プロピリスルフロン	1.6
	キクンジャーＺ１キロ粒剤	ピラゾレート	15.0
	(2013)	プロピリスルフロン	0.9
	キラリジャンボ	イマゾスルフロン	2.25
		ピラクロニル	5.0
	（2022）	テフリルトリオン	5.0
	キラリフロアブル	イマゾスルフロン	1.7
		ピラクロニル	3.8
	（2022）	テフリルトリオン	3.8
	キラリ１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		ピラクロニル	2.0
	（2021）	テフリルトリオン	2.0
	銀河ジャンボ	ダイムロン	25.0
		ピラクロニル	5.0
	（2015）	メタゾスルフロン	2.5
	銀河フロアブル	ダイムロン	20.0
		ピラクロニル	4.0
	（2015）	メタゾスルフロン	2.0
	銀河１キロ粒剤	ダイムロン	10.0
		ピラクロニル	2.0
	(2014)	メタゾスルフロン	1.0
	クサトリーBSXジャンボL	フェントラザミド	10.0
		ベンスルフロンメチル	1.7
	（2015）	ベンゾビシクロン	6.7
	クサトリーBSXフロアブルL	フェントラザミド	5.8
		ベンスルフロンメチル	1.0
	（2015）	ベンゾビシクロン	3.8
	クサトリーBSX1キロ粒剤51 /	フェントラザミド	3.0
	ビックシュアＺ１キロ粒剤51	ベンスルフロンメチル	0.51
	（2015）	ベンゾビシクロン	2.0
	ゴエモン1キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		イプフェンカルバゾン	2.5
	(2015)	ブロモブチド	9.0
	コメットフロアブル	テフリルトリオン	4.0
		ピラクロニル	4.0
	(2019)	メタゾスルフロン	1.2
	サラブレッドGOジャンボ	ピラクロニル	2.5
		イマゾスルフロン	2.3
		オキサジクロメホン	1.5
	(2023)	ブロモブチド	22.5
	サラブレッドGO400FG	ピラクロニル	2.5
		イマゾスルフロン	2.25
		オキサジクロメホン	1.5
	(2023)	ブロモブチド	22.5
	サラブレッドGOフロアブル	ピラクロニル	1.9
		イマゾスルフロン	1.7
		オキサジクロメホン	1.1
	(2023)	ブロモブチド	16.7
	サラブレッドGO1キロ粒剤	ピラクロニル	1.0
		イマゾスルフロン	0.9
		オキサジクロメホン	0.6
	(2023)	ブロモブチド	9.0
	サラブレットKAIジャンボ	イマゾスルフロン	2.25
		オキサジクロメホン	0.75
	（2015）	ピラクロニル	5.0

（５）初・中期一発処理（SU剤）

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	**サラブレットKAI400FG**	**イマゾスルフロン**	**2.3**
		オキサジクロメホン	**0.75**
	(2024)	**ピラクロニル**	**5.0**
	サラブレットKAIフロアブル	イマゾスルフロン	1.7
		オキサジクロメホン	0.57
	(2015)	ピラクロニル	3.8
	サラブレッドKAI 1キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		オキサジクロメホン	0.4
	(2014)	ピラクロニル	2.0
	シグナスジャンボ	メタゾスルフロン	2.0
		テフリルトリオン	6.7
	(2018)	フェントラザミド	10.0
	シグナスフロアブル	メタゾスルフロン	1.2
		テフリルトリオン	4.0
	(2018)	フェントラザミド	6.0
	シグナス1キロ粒剤	メタゾスルフロン	0.6
		テフリルトリオン	2.0
	(2018)	フェントラザミド	3.0
	忍１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.90
		ピラクロニル	2.0
	(2013)	ベンゾビシクロン	2.0
	シンズイZジャンボ	オキサジクロメホン	2.4
		フェンキノトリオン	12.0
		プロピリスルフロン	3.6
	(2022)	ブロモブチド	36.0
	シンズイZ1キロ粒剤	オキサジクロメホン	0.8
		フェンキノトリオン	3.0
		プロピリスルフロン	0.9
	(2022)	ブロモブチド	9.0
	ゼータジャガージャンボ	プロピリスルフロン	4.5
		フェンキノトリオン	15.0
	(2022)	ペントキサゾン	10.0
	ゼータジャガーフロアブル	プロピリスルフロン	1.7
		フェンキノトリオン	5.7
	(2022)	ペントキサゾン	3.8
	ゼータタイガージャンボ／	プロピリスルフロン	3.0
	ドラゴンホークZジャンボ	ブロモブチド	30.0
	(2018)	ペントキサゾン	6.67
	ゼータタイガーフロアブル／	プロピリスルフロン	1.7
	ドラゴンホークZフロアブル	ブロモブチド	16.8
	(2018)	ペントキサゾン	3.7
	ゼータハンマー1キロ粒剤	ペントキサゾン	2.0
	(2018)	プロピリスルフロン	0.9
	ゼータプラスジャンボ	フェンキノトリオン	15.0
	(2021)	プロピリスルフロン	4.5
	ゼータプラスフロアブル	フェンキノトリオン	5.8
	(2021)	プロピリスルフロン	1.7
	ゼータプラス1キロ粒剤	フェンキノトリオン	3.0
	(2021)	プロピリスルフロン	0.9
	ゼータワンジャンボ	プロピリスルフロン	2.3
	(2012)		
	センイチＭＸジャンボ	ピラクロニル	4.0
	フルパワーＭＸジャンボ	フルセトスルフロン	0.4
	(2017)	メソトリオン	1.8
	ディオーレ1キロ粒剤	オキサジクロメホン	0.4
		テフリルトリオン	2.0
	(2022)	メタゾスルフロン	1.0
	天空ジャンボ	メタゾスルフロン	2.0
		ベンゾビシクロン	10.0
	(2018)	フェントラザミド	10.0
	天空フロアブル	メタゾスルフロン	1.2
		ベンゾビシクロン	6.0
	(2018)	フェントラザミド	6.0
	天空１キロ粒剤	メタゾスルフロン	0.6
		ベンゾビシクロン	3.0
	(2018)	フェントラザミド	3.0
	ドリフ1キロ粒剤	トリアファモン	0.4
		フェントラザミド	2.0
		エトキシスルフロン	0.17
	(2021)	クロメプロップ	4.5
	バッチリフロアブル	イマゾスルフロン	1.7
		ピラクロニル	3.7
	(2011)	ブロモブチド	16.3
	バッチリ１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		ピラクロニル	2.0
	(2010)	ブロモブチド	9.0

処理法	除草剤名（登載年）	成分（%）	
初・中期一発処理	バッチリＬＸジャンボ	ピラクロニル	5.0
		イマゾスルフロン	2.3
		ブロモブチド	22.5
	(2017)	オキサジクロメホン	0.8
	バッチリLXフロアブル	ピラクロニル	3.7
		イマゾスルフロン	1.7
		ブロモブチド	16.3
	(2016)	オキサジクロメホン	0.6
	ビクトリーＺジャンボ	ピラクロニル	5.0
	メガゼータジャンボ	プロピリスルフロン	2.25
	(2012)		
	ビクトリーＺ400FG	**ピラクロニル**	**5.0**
	メガゼータ400FG	**プロピリスルフロン**	**2.25**
	(2024)		
	ビクトリーＺ1キロ粒剤	**ピラクロニル**	**2.0**
	メガゼータ1キロ粒剤	**プロピリスルフロン**	**0.9**
	(2024)		
	ビクトリーＺジャンボ	ピラクロニル	5.0
	メガゼータジャンボ	プロピリスルフロン	2.3
	(2012)		
	フルスコアZジャンボ	プロピリスルフロン	3.0
	(2022)	ランコトリオンナトリウム塩	7.0
	フルスコアZ1キロ粒剤	プロピリスルフロン	0.9
	(2022)	ランコトリオンナトリウム塩	2.1
	ブルゼータジャンボ	プロピリスルフロン	4.5
	(2019)	ベンゾビシクロン	10.0
	マスラオジャンボ	イマゾスルフロン	4.5
		ピリミノバックメチル	3.0
	(2021)	フェンキノトリオン	15.0
	マスラオフロアブル	イマゾスルフロン	1.7
		ピリミノバックメチル	1.2
	(2021)	フェンキノトリオン	5.8
	マスラオ1キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		ピリミノバックメチル	0.6
	(2020)	フェンキノトリオン	3.0
	ラオウジャンボ	ダイムロン	24.0
		フェノキサスルホン	6.0
		フェンキノトリオン	10.0
	(2023)	ベンスルフロンメチル	3.0
	ラオウフロアブル	ダイムロン	11.3
		フェノキサスルホン	2.8
		フェンキノトリオン	4.7
	(2023)	ベンスルフロンメチル	1.4
	ラオウ1キロ粒剤	ダイムロン	6.0
		フェノキサスルホン	1.5
		フェンキノトリオン	2.5
	(2023)	ベンスルフロンメチル	0.8
	流星１キロ粒剤	フェンキノトリオン	3.0
		ペントキサゾン	2.5
	(2022)	メタゾスルフロン	1.0

（６）生育中後期

2023年7月1日現在

除草剤名 （登載年）	成分（%）	適用雑草													使用上の注意
		ノビエ	水田一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	オモダカ	ヘラオモダカ	セリ	クログワイ	表層剥離	
アレイルSC （2021）	ハロスルフロンメチル 1.8 メタゾスルフロン 2.4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1 散布後少なくとも２日間（湛水処理は３日間）はそのままの状態を保ち、入水はしない。散布後、7日間は落水・かけ流しはしない。 2 いぐさの栽培予定水田では使用しないこと
アトカラSジャンボMX／セカンドショットSジャンボMX （2018）	アジムスルフロン 0.36 ペノキススラム 0.36 メソトリオン 2.0	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●		
ウィードコア1キロ粒剤 （2022）	フロルピラウキシフェンベンジル 0.4 ペノキススラム 0.5 ベンゾビシクロン 2.0	●	●		●	●	●	●				●			1．散布に当たっては、水深3～5cmの湛水状態で田面に均一に散布してください。 水の出入りを止めて、少なくとも3～5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を 露出させないよう注意してください。散布後7日間は落水、かけ流しはしないでく ださい。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。
クリンチャー１キロ粒剤 （1998）	シハロホップブチル 1.8	●	アゼガヤ、キシュウスズメノヒエに適用あり												1．散布する前に水の出入りを止め、湛水のままムラのないよう均一に散布する。散布後少なくとも３～４日間は湛水状態（水深３～５cm程度)を保ち、落水、かけ流しはしない。 2．広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3．キシュウスズメノヒエの防除は展開葉が水面に接する条件で使用する。
クリンチャージャンボ （1999）	シハロホップブチル 1.8	●													1．クリンチャー１キロ粒剤の１～２に準ずる。
クリンチャーＥＷ （2000）	シハロホップブチル 30.0	●	アゼガヤ、キシュウスズメノヒエに適用あり												1．展着剤を加用して散布する。 2．広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3．落水条件で散布する際は、撒きむらがないように均一に散布してください。 4．湛水条件で散布する際は、散布する前に水の出入りを止め、湛水のまま均一に散布する。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 5．とうもろこし、ソルガム等イネ科作物及びキャベツ等の隣接田で使用する場合はこれらにかからないよう注意する。
クリンチャーバスＭＥ液剤 （1997）	シハロホップブチル 3.0 ベンタゾンナトリウム塩 20.0	● キシュウスズメノヒエに適用あり	●	●	●	●	●		●	●			●		1．高温条件では葉の白斑や葉枯れなどの薬害を生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合には、夕方に散布するなど高温条件をさけ、出来るだけ多めの希釈水量を用い、低濃度液を水稲にかからないように散布する。 2．動力噴霧器での散布は薬害を生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理することが望ましい。 3．散布する前に落水状態にして水の出入りを止め（落水出来ない場合は出来るだけ浅水状態にして）ムラのないように均一に散布する。 4．散布後少なくとも３日間（浅水処理の場合は５日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 5．ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリでは発生盛期から増殖中期までが散布適期である。
ゲパードジャンボ （2021）	ダイムロン 25.0 ピラクロニル 5.0 ベンゾビシクロン 5.0 メタゾスルフロン 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. いぐさの栽培予定水田では使用しない
シアゲMF 1キロ粒剤 （2020）	ピリミスルファン 0.60 メタミホップ 0.90 MCPB 2.40	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		1. 散布に当たっては、水の出入りを止めて5cm以上の湛水をし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(3～5cm)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は有効な前処理剤との組み合わせで使用する。 3. 散布後の急激な気温の上昇により薬害を生じることがある。
テッケン1キロ粒剤/ニトウリュウ1キロ粒剤 （2015）	ペノキススラム 0.5 ベンゾビシクロン 2.0		●	●	●	●	●	●				●			1.
トドメMF乳剤 （2019）	メタミホップ 4.9	●													1. 湛水散布または落水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
トドメMF1キロ粒剤 （2019）	メタミホップ 1.4	●													1. 湛水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
トドメバスMF液剤 （2022）	ベンタゾンナトリウム塩 18.3 メタミホップ 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●			1．散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2．オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
粒状水中２，４－Ｄ （1958）	２，４－ＰＡエチル 1.4		水田雑草（イネ科を除く）に適用あり												1．湛水状態で散布する。漏水田では使用を避け、散布後は水の出入りを止めて、２日間以上湛水状態を保つ。 2．粒剤は雑草への付着が少ないので効果が劣る。また遅効性なので、３～５日程度散布時期を早める。
２，４－Ｄアミン塩 （1999）	２，４－ＰＡジメチルアミン 49.5		水田雑草（イネ科を除く）に適用あり												1．薬剤が雑草に良く付着するよう十分落水して、２，4-Ｄ専用の散布器で出来るだけ株間に均一に散布する。 2．降雨前の散布はさける。 3．散布後２～３日間は落水のままとし、灌水しない。 4．噴霧器で散布すると除草効果は一層高くなるが、水稲の生育抑制も大きいので、生育旺盛な場合を除いては使用しない。 5．マツバイ、ホタルイ、ウリカワの多発田では、使用量の範囲内で散布量を多くする。
バサグラン・エアー1キロ粒剤 （2024）	**ベンタゾン 33.0**		**● ※水田一年生雑草はイネ科を除く**	**●**	**●**	**●**	**●**			**●**	**●**		**●**		**1. ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワでは発生盛期～増殖中期まで、オモダカでは発生盛期～発生揃期まで、クログワイでは草丈15～20cmまでに使用する。 2．散布後少なくとも３～５日間は湛水状態を保ち、散布後７日間は落水、かけ流しはしない。 3．無人航空機による省力散布が可能。**
バサグラン粒剤（ナトリウム塩） （1988）	ベンタゾンナトリウム塩 11.0		● ※水田一年生雑草はイネ科を除く	●	●	●	●			●	●				1．一年生広葉やカヤツリグサ科雑草および多年生広葉雑草に優れた効果を示す。イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえる。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 2．十分に落水して散布する。散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 3．処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。
バサグラン液剤（ナトリウム塩） （1988）	ベンタゾンナトリウム塩 40.0		● ※水田一年生雑草はイネ科を除く	●	●	●	●		●	●	●		●		1．バサグラン粒剤の１～３に準ずる。 2．重複散布は薬害のおそれがあるので、均一散布につとめる。
フォローアップ１キロ粒剤 ワイドアタックＤ１キロ粒剤 （2013）	ダイムロン 10.0 ペノキススラム 0.60	●	●	●	●	●	●	●		●			●		1．散布する前に湛水状態（水深３～５ｃｍ）にして水の出入りを止め、ムラのないよう均一に散布する。 2．散布後少なくとも３～５日間は湛水状態を保ち、散布後７日間は落水、かけ流しはしない。
モゲトン粒剤 （1972）	ＡＣＮ 9.0					● ウキクサ類、藻類に適用あり		●							1．河川、池などに流れ込んだ場合、魚類に被害を及ぼすので決して流出しないよう注意する。 2．水稲３葉期以下の時期では薬害の恐れがあるので使用しない。
レブラスジャンボ （2021）	ジメタメトリン 2.5 ダイムロン 25.0 テフリルトリオン 7.5 メタゾスルフロン 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 散布に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態を保つ。 2. いぐさの栽培予定水田では使用しない。 3. 雑草の発生前から生育初期に有効なため、ノビエ４葉期までに時期を失しないように散布する。
ロイヤント乳剤 （2024）	**フロルピラウキシフェンベンジル 2.7**	**●**	**●**	**●**		**●**	**●**			**●**		**●**			**1. ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので対象外とする。 2. 落水またはごく浅く湛水して散布し、散布後3日以内に入水する。**
ワイドアタックＳＣ （2012）	ペノキススラム 3.6	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●		1．散布する前に落水状態（落水できない場合はごく浅水状態にして）にして水の出入りを止め、ムラのないように均一に散布する。 2．散布後７日間はそのままの状態を保ち、入水や落水、かけ流しをしない。 3．散布時期が遅くなると生育が進んだ雑草が多くなるので、登録範囲内で早めに散布する。 4．効果の発現は遅く、効果の完成まで30～40日要することがある。
ワイドショット1キロ粒剤 （2018）	ペノキススラム 0.50 テフリルトリオン 3.0	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
ワイドパワー粒剤 （2014）	ペノキススラム 0.12 ベンタゾン 11.0		●	●	●	●	●	●		●			●		1．落水散布またはごく浅く湛水して散布する。

５．乾田直播

2023年7月1日現在

処理法	除草剤名 （登載年）	成分（%）	適用雑草 ノビエ	水田一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	オモダカ	ヘラオモダカ	セリ	クログワイ	表層剥離	使用上の注意
乾田期	サターンバアロ乳剤 (1973)	プロメトリン 5.0 ベンチオカーブ 50.0	●	●	●											1．播種後湿潤状態で処理した方が効果的である。 2．覆土が浅い場合には出芽不良などの薬害を生じることがあるので、覆土はていねいに２～３㎝程度行う。 3．希釈水量が多いほど除草効果は高い。
乾田期	ラウンドアップマックスロード (2011)	グリホサートカリウム塩 48.0	一年生及び多年生雑草に適用あり													1．播種後に使用する場合は、耕起直後～出芽前の間に早めに散布する。 2．少量散布の場合は、少量散布用ノズルを使用する。
乾田期～入水後	クリンチャーバスＭＥ液剤 (1997)	シハロホップブチル 3.0 ベンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●								1．移植に準ずる。
乾田期～入水後	クリンチャーＥＷ (2000)	シハロホップブチル 30.0	●	●												1．移植に準ずる。
				※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草												
乾田期～入水後	トドメバスMF液剤 (2022)	ベンタゾンナトリウム塩 18.3 メタミホップ 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●			1．散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2．オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

６．湛水直播

2023年7月1日現在

処理法	除草剤名 （登載年）	成分（%）	適用雑草 ノビエ	水田一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	オモダカ	ヘラオモダカ	セリ	クログワイ	表層剥離	使用上の注意
播種直後	プレキープ１キロ粒剤 (2016)	ピラゾキシフェン 1.5 ベンゾビシクロン 0.30	●	●	●	●	●	●	●							1．非ＳＵ剤 2．ノビエ1.0葉期までに散布することが望ましい。 3．ＳＵ抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。 4．表面散播でも薬害が少ない。
初期一発	ウルフエース１キロ粒剤５１ (2005)	ベンスルフロンメチル 0.51 ベンチオカーブ 15.0 メフェナセット 3.0	●	●	●	●	●	●	●				●		●	1．ＳＵ剤
初期一発	トップガンＬフロアブル (2009)	ピリミノバックメチル 0.56 ブロモブチド 17.0 ベンスルフロンメチル 0.93 ペントキサゾン 2.8	●	●	●	●	●	●					●		●	1．ＳＵ剤 2．ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3．ＳＵ抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。
初期一発	トップガンＧＴ１キロ粒剤５１ (2009)	ピリミノバックメチル 0.45 ブロモブチド 9.0 ベンスルフロンメチル 0.51 ペントキサゾン 2.0	●	●	●	●	●	●					●			1．ＳＵ剤 2．ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3．ＳＵ抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。
中後期	クリンチャー１キロ粒剤	シハロホップブチル 1.8	●													1．移植に準ずる。
中後期	クリンチャーＥＷ	シハロホップブチル 30.0	●	●												1．移植に準ずる。
				※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草												
中後期	クリンチャーバスＭＥ液剤	シハロホップブチル 3.0 ベンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●								1．移植に準ずる。
中後期	２，４－Ｄアミン塩	２，４－ＰＡジメチルアミン 49.5	水田雑草（イネ科を除く）に適用あり													1．移植に準ずる。
中後期	トドメバスMF液剤 (2022)	ベンタゾンナトリウム塩 18.3 メタミホップ 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●			1．散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2．オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

７．除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果									処理適期幅	持続効果	土壌中の移動性
						ﾉﾋﾞｴ	ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ	ｺﾅｷﾞ	その他広葉	ﾎﾀﾙｲ	ｳﾘｶﾜ	ﾐｽﾞｶﾞﾔﾂﾘ	ｸﾛｸﾞﾜｲ	ｵﾓﾀﾞｶ			
MCPA 2,4-PA	ﾌｪﾉｷｼ系	茎葉、根	ﾎﾙﾓﾝ型 移行性	ﾎﾙﾓﾝ作用の攪乱	ロール葉 下葉枯れ	×	○	○	○	◎	○	○	－	○	雑草生育期(コナギ2～5L)	長	小
ｱｼﾞﾑｽﾙﾌﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根、基部、茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～発生盛期	長	中
ｲﾌﾟﾌｪﾝｶﾙﾊﾞｿﾞﾝ	ﾄﾘｱｿﾞﾘﾉﾝ系	根部、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○～◎	○	○	×	○	×	△	－	極長	極小
ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根、基部、茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	小
ｲﾝﾀﾞﾉﾌｧﾝ	ｵｷｼﾗﾝ系	根、幼芽部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○～◎	△～○	×	×	－	－	発生前～ノビエ2.5L	長	小
ｴｽﾌﾟﾛｶﾙﾌﾞ	ﾁｵｶｰﾊﾞﾒｲﾄ系	根、幼芽（基部）	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	△～○	△～○	○	×	△	×～△	×	発生前～ノビエ2.5L	長	小
ｴﾄﾍﾞﾝｻﾞﾆﾄﾞ	酸ｱﾐﾄﾞ系	根＞幼芽＞茎葉	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	×	△	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ2.5L	長	小
ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ	ｵｷｻｼﾞﾉﾝ系	根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ4L	長	中
ｶﾌｪﾝｽﾄﾛｰﾙ	ﾄﾚｱｿﾞｰﾙ系	根、基部、茎葉	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○～◎	○	△～○	×	△～○	×	×	発生前～ノビエ2.5L	極長	極小
ｶﾙﾌｪﾝﾄﾗｿﾞﾝｴﾁﾙ	ﾄﾘｱｿﾞﾘﾉﾝ系	茎葉部	－	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	生育抑制 葉鞘褐変	×	○	◎	◎	△	○	×	○	△	－	中	小
ｷﾉｸﾗﾐﾝ(ACN)	ｷﾉﾝ系	茎葉（根）	接触性	光合成阻害	葉鞘褐変 葉身白化	×	△	△～○	△～○	×	◎	×	×	○	発生始～盛期	短	小
ｸﾐﾙﾛﾝ	尿素系	根部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	◎	○～◎	×	－	長	極小
ｼｸﾛﾋﾟﾘﾓﾚｰﾄ	ﾋﾟﾘﾀﾞｼﾞﾝｼﾞｵﾝ系	根部、基部	－	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	白化	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	－	長	極小
ｸﾛﾒﾌﾟﾛｯﾌﾟ	ﾌｪﾉｷｼ系	基部＞根＝茎葉	ﾎﾙﾓﾝ型 移行性	ﾎﾙﾓﾝ作用の攪乱	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	○	×	－	－	発生前～発生始	長	中
ｼｸﾛｽﾙﾌｧﾑﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根、基部、茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	小～中
ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ	ﾌｪﾉｷｼﾌﾟﾛﾋﾟｵﾝ酸系	茎葉	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	～ノビエ4L(粒) ～ノビエ6L(乳)	短	小
ｼﾞﾒﾀﾒﾄﾘﾝ	ﾄﾘｱｼﾞﾝ系	根、幼芽	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	△	◎	◎	◎	○	△	○	－	－	発生前～ノビエ1L	極長	小
ｼﾒﾄﾘﾝ	ﾄﾘｱｼﾞﾝ系	根	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	○	◎	◎	◎	△	△	×	×	×	発生前～ノビエ2L	長	小
ﾀﾞｲﾑﾛﾝ	尿素系	根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	○	○	×	発生前～発生始	極長	小
ﾃﾆﾙｸﾛｰﾙ	酸ｱﾐﾄﾞ系	幼芽、幼根	移行性	ﾀﾝﾊﾟｸ合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ2L	長	小
ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ	ﾄﾘｹﾄﾝ系	根、基部	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	白化	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	長	中
ﾄﾘｱﾌｧﾓﾝ	ｽﾙﾎﾝｱﾆﾘﾄﾞ系	根、基部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ5L	長	中
ﾊﾛｽﾙﾌﾛﾝﾒﾁﾙ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根≧幼芽≧茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	△～○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ	－	根、基部＞茎葉	接触性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	○	△～○	○	○～◎	発生前～ノビエ2L	長	極小
ﾋﾟﾗｿﾞｷｼﾌｪﾝ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾝ系	幼芽、根	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	ｸﾛﾛｼｽ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	×	○	発生前～ノビエ1L	長	小
ﾋﾟﾗｿﾞｽﾙﾌﾛﾝｴﾁﾙ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根≧幼芽＞基部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	△～○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ﾋﾟﾗｿﾞﾚｰﾄ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾝ系	幼芽＞根	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	ｸﾛﾛｼｽ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	－	◎	発生前～ノビエ1L	長	小～中
ﾋﾟﾘﾌﾀﾘﾄﾞ	ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾆﾙｻﾘﾁﾙ酸系	根部＞基部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	○	×	○～◎	△	×	○	－	－	発生前～ノビエ3L	長	極小
ﾋﾟﾘﾌﾞﾁｶﾙﾌﾞ	ﾁｵｶｰﾊﾞﾒｲﾄ系	根＞基部＞茎葉	移行性	物質転流阻害、老化促進	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	－	△	－	－	発生前～ノビエ1.5L	極長	極小
ﾋﾟﾘﾐｽﾙﾌｧﾝ	ｽﾙﾎﾝｱﾐﾄﾞ系	根部、基部、茎葉部	－	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～ノビエ3L	長	中
ﾋﾟﾘﾐﾉﾊﾞｯｸﾒﾁﾙ	ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾆﾙｶﾙﾎﾞﾝ酸系	根、基部、茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ3.5L	長	中
ﾌｪﾉｷｻｽﾙﾎﾝ	ｲｿｷｻｿﾞﾘﾝ系	根部、茎葉基部	－	超長鎖脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	△～○	×	△	×	×	－	極長	小
ﾌｪﾝﾄﾗｻﾞﾐﾄﾞ	ﾃﾄﾗｿﾞﾘﾉﾝ系	根、幼芽部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	△	×	×	×	×	発生前～ノビエ2.5L	長	極小
ﾌﾞﾀｸﾛｰﾙ	酸ｱﾐﾄﾞ系	幼芽部＞根部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	○～◎	×	○	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
ﾌﾞﾀﾐﾎｽ	有機ﾘﾝ系	幼芽	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	△	○	○	△	×	△	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
ﾌﾙｾﾄｽﾙﾌﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根部、基部、茎葉部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	△	◎	◎	×	○	△	発生前～ノビエ3L	長	中
ﾌﾟﾚﾁﾗｸﾛｰﾙ	酸ｱﾐﾄﾞ系	幼芽、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	×	○	◎	－	－	発生前～ノビエ1.5L	中～長	小
ﾌﾟﾛﾋﾟﾘｽﾙﾌﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根部、基部、茎葉部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ3L	長	小
ﾌﾞﾛﾓﾌﾞﾁﾄﾞ	酸ｱﾐﾄﾞ系	幼芽、根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	◎	◎	△	◎	△	○～◎	○	△	発生前～発生初期	長	中～少
ﾌﾛﾙﾋﾟﾗｳｷｼﾌｪﾝﾍﾞﾝｼﾞﾙ	ﾋﾟﾘｼﾞﾝｶﾙﾎﾞﾝ酸系	根部、基部、茎葉部	ﾎﾙﾓﾝ型 移行性	ﾎﾙﾓﾝ作用の攪乱	ロール葉 生育抑制	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	◎	－	長	極小
ﾍﾟﾉｷｽｽﾗﾑ	ｽﾙﾎﾝｱﾐﾄﾞ系	根部、基部、茎葉部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○～◎	◎	◎	～ノビエ5L	中	中
ﾍﾞﾝｽﾙﾌﾛﾝﾒﾁﾙ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根、基部、茎葉	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△～○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ﾍﾞﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾝ系	根部＝基部≧茎葉	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	ｸﾛﾛｼｽ	◎	◎	◎	○	◎	△	◎	△	×	発生前～ノビエ1L	長	極小
ﾍﾞﾝｿﾞﾌｪﾅｯﾌﾟ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾝ系	根＞基部＞茎葉	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	ｸﾛﾛｼｽ	○	○	◎	◎	△	◎	△	×	◎	発生前～発生始期	長	小
ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾝ系	茎葉、根	接触 移行性	光合成阻害	葉枯れ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	雑草生育期、発生盛～増殖期	長	大
ﾍﾟﾝﾄｷｻｿﾞﾝ	ｵｷｻｿﾞﾘｼﾞﾝｼﾞｵﾝ系	根、基部≧茎葉	接触性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	○	△～○	○	－	－	発生前～ノビエ1.5L	長	極小
ﾍﾞﾝﾌﾚｾｰﾄ	ﾍﾞﾝｿﾞﾌﾗﾝ系	根、幼芽部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	○	○	◎	◎	－	発生前～発生盛期	長	極小
ﾒｿﾄﾘｵﾝ	ﾄﾘｹﾄﾝ系	幼芽、茎葉	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	白化 生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	△	○	×	△	－	長	小
ﾒﾀｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ	ｽﾙﾎﾆﾙｳﾚｱ系	根部、基部、茎葉部	移行性	ｱﾐﾉ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	長	中
ﾒﾀﾐﾎｯﾌﾟ	ﾌｪﾉｷｼﾌﾟﾛﾋﾟｵﾝ酸系	茎葉部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制 葉先白化	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生始～ノビエ7L	中	小
ﾒﾌｪﾅｾｯﾄ	酸ｱﾐﾄﾞ系	幼芽、根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ3L	長	極小
ﾓﾘﾈｰﾄ	ﾁｵｶｰﾊﾞﾒｲﾄ系	根、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	×	◎	△	△	発生前～ノビエ3L	長	中
ﾗﾝｺﾄﾘｵﾝﾅﾄﾘｳﾑ塩	ﾄﾘｹﾄﾝ系	根部、基部、茎葉部	移行性	ｸﾛﾛﾌｨﾙ生合成阻害	白化	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	×	－	長	中

出典：公益財団法人日本植物調節剤研究協会「水稲関係除草剤申請書」
注）除草効果は◎・・極大、○・・大、△・・中、×・・小を示す。